

JEHC 電化厨房機器性能指標基準(改訂6版) の改訂内容のポイントと 電化厨房機器の省エネ化に向けた今後の展開

上岡 章男 (うえおか あきお) 株式会社ウエテック研究所 代表取締役

要約 電化厨房機器性能指標基準(以下「本基準」という)は、定格消費電力および適用範囲の定義を明確にする必要に迫られて、平成27年9月に改訂6版を完了した。本基準の初版からの目的と意義を確認し、今回の改訂理由と内容を説明する。更に、本基準の今後の展開として、JEHCの電化厨房機器登録制度の意義と課題を明らかにし、電化厨房機器の省エネルギー化に関する提言を述べる。本基準が各方面の方々のご理解を得て、ご活用されることにより、省エネルギー化の一助となり電化厨房機器の普及拡大につながることを願うものである。

1. はじめに

JEHC 電化厨房機器性能指標基準(以下「本基準」という)は、12年前の平成15年10月に当時の日本電熱協会(現(一社)日本エレクトロヒートセンター)の電化厨房委員会(以下「委員会」という)が初版を制定し、その後4度の改訂を経て、この度改訂6版が完了した。

そもそも委員会が本基準を制定することになった切っ掛けは、厨房機器の選定に際して機器の性能を比較検討しようとしても製造者の性能表示が十分になく、あっても共通の物差しではないことが委員会で問題となったことにある。

従来の厨房は、ガス機器が主であり、厨房業界では各社それぞれ似たようなガス機器が品揃えされていて、外形寸法などで選んでもそれほど問題にはならないが、電化厨房の普及拡大の時期にあって、ガスから電気に換えるに際して、顧客が望む従来の性能と同等以上の機種を選ぶためには、どうしても標準的な性能表示が必要になった。

そして、熱効率の測定方法等の勉強会が何度か開かれ、二、三年経った後、年間計画を議論する場で「厨房機器の性能指標の業界標準を自分達で作ろう。」ということが決まった。それによって初版のワーキングが始まって、現在に至っている。

初版から改訂5版までの本基準の定める指標は、熱

効率、立上り性能、調理能力もしくは処理能力、消費電力量、給水量もしくは給湯量、均一性である。

その内の消費電力量と給水量もしくは給湯量は、省エネルギーに係る重要な指標であり、試験機器の標準的な日あたり消費電力量だけでなく、顧客の営業形態や使用形態に合わせて、日あたり消費電力量を試算することができる指標となっている。これは、顧客にとって重要なランニングコストに直結する事項であり、電化厨房を提案する者にとっても便利だけでなく、機器の製造者にとって、今後更に重要になるであろう省エネルギー性の向上等の機器の改善や新製品開発に大いに役立つ指標である。

本基準は、初版以来、活用される中で次々と関係者の改善提案を織り込み、改訂を繰り返し、より正確にかつ容易に試験ができる改訂5版が既に仕上がっていた。

しかし、この度、定格消費電力および適用範囲の定義を明確にする必要に迫られて、改訂6版に至った。

2. 改訂6版の内容とポイント

電化厨房機器性能指標基準改訂6版の主な変更点と概要を表1に示す。